

子どもとAYA世代サポートセンター ～センター長就任のご挨拶～

子どもとAYA世代サポートセンター センター長 講師 やすだ けんじ
安田 謙二

この度、前センター長の金井理恵先生の後任として、子どもとAYA世代サポートセンター長を拝命いたしましたので、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

当センターは、島根大学医学部附属病院に関わる子どもと、AYA世代（Adolescent and Young Adult、概ね15歳から30歳代）と呼ばれる若い世代の「包括的」支援を行うことを目的に、2020年1月に開設されました。これまで患者さんご自身、患者さんの保護者さん・ごきょうだいさん・お子さんなどの個別支援、がんの親をもつ子どものためのサポートプログラムであるCLIMB®開催、AYA支援チーム養成プログラム受講の推進など、様々な成果を挙げられました。

私が専門とする小児（循環器）領域の最近の重要課題に、移行期医療、障がい児・者、医療的ケア児・者支援があり、これらは当センターの活動とも繋がる課題と感じます。

しかし現状この領域の子どもとAYA世代に十分な支援は届いておりません。今後は、これまで築かれた当センターの基盤の元に、こうした領域との連携を進めることにより、当センターが、支援を必要とするすべての子どもとAYA世代のお役に立てる部門となる様、尽力する所存でございます。皆様のご指導、ご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。



子どもとAYA世代サポートセンター パンフレットより

お問い合わせ 小児科学講座医局 TEL:0853-20-2219

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年6月15日～7月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/18(金)～ 6/16(木)	令和3年度 第4回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
6/18(土) 12:50～17:00	第33回島根県がん登録研修会	Zoomによるオンライン開催	医療	島根県がん診療ネットワーク協議会 がん登録部会実務担当者研究会 島根県健康福祉部健康推進課 島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2022年
6月
Vol.104

NEWS



CONTENTS

・病院長補佐(改革担当)就任のご挨拶
・新興感染症ワクチン・治療用抗体
研究開発センター設置のご報告

・子どもとAYA世代サポートセンター
センター長就任のご挨拶
・研修会・講演会・セミナー開催情報



病院長補佐(改革担当)就任のご挨拶

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科長 教授 さかもと たつのり
坂本 達則



この度、病院長補佐(改革担当)を拝命いたしました、坂本達則と申します。

辞典をひもときますと、「補佐」とは「かたわらにあってその人の仕事を助けること」とあります。病院長の仕事は多岐にわたり、時間的にも内容的にも多忙ですので、その仕事を助けるという職務をいただいたことになります。私は、1995年京都大学を卒業し、2020年5月に本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授に着任いたしましたが、島根大学医学部および附属病院、そして島根県の皆様とはこのときからのご縁ということになります。どの組織におい

ても、円滑に運営されていることもあれば、気づいていなかったけれども少し修正すればより良く、よりうまく出来るようになることもあると思います。このたび本職をいただきましたのは、異なる経験をしてきた、これまでとは異なる視点からみた問題点や改善点を指摘しなさいという意図ではないかと思っています。小さな気づきや、大きな視点から見た正しさを大切にしながら、患者さんにとっても、関連病院の先生方にとっても、院内で働く人にとっても、より良い病院に出来るような助言が出来ればと思っています。

病院長補佐としての職務に鋭意取り組んでまいりますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター設置のご報告

副センター長・生化学講座病態生化学 教授 うらの たけし
浦野 健



感染症の研究開発拠点として、東京大学・東京医科歯科大学・千葉大学・大阪大学・長崎大学の5大学とともに、本年度文部科学省の指定を受け、鬼形和道医学部長をセンター長として、本センターが4月1日新設されましたので、ご報告いたします。

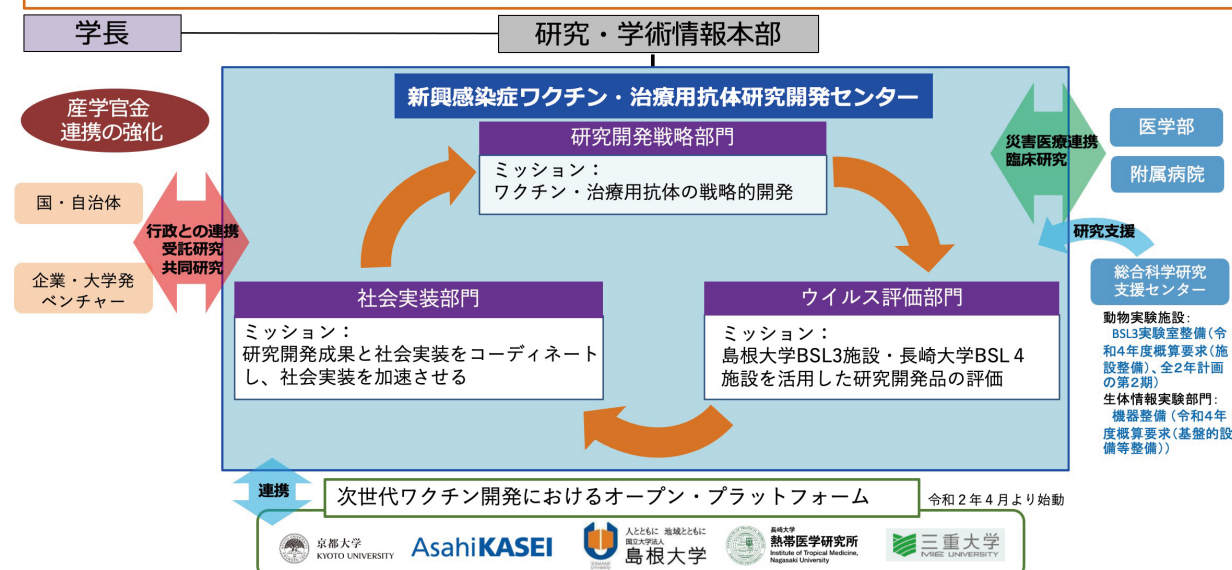
新型コロナウイルス感染症が勃発した時点で速やかに治療用抗体の基となる抗体の研究開発に着手し、ウイルスの細胞への感染を阻害する抗体を作製し、長崎大学と特許出願(2021年1月22日)を行いました。さらに、2020年4月からは、旭化成(株)・京都大学・三重大学・長崎大学と共に新型コロナウイルスに対する次世代ワクチンの研究開発に着手し、マウスの実験結果ですが、ウイルスの感染を防ぐ中和活性を有する抗体価の上昇・1年以上の長い持続期間・免疫記憶の誘導ができる新しい国産ワクチンの開発に成功し、特許出願(2021年12月16日)を行いました。これら一連の成果が認められ、今回6大学の一つに選んでいただいたのだと思います。

研究開発を戦略的に行う部門、長崎大学と協働して研究開発品を評価する部門、そして旭化成(株)の社員を迎えるなど、製薬会社とのスムーズな連携を可能とし早期製剤化を目指す部門の3部門から構成されています。新型コロナウイルス感染症ばかりではなく、今後勃発する可能性の高い新しい感染症にも速やかに対応していくと共に、現在開発中の抗体や副反応のより少ないワクチンの社会実装を加速してまいります。

社会実装に向けた新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター 島根大学

【センターの目的】

予測不能な新興感染症の勃発に対して、コールドチェーンを必要とせず、小児にも安心して使用できるデリバリー基材の異なる次世代ワクチン、そして治療用抗体の国内での迅速な研究開発・評価・社会実装を可能とする体制とネットワークを戦略的に構築する。



【センターにより期待される成果】

- ・RNAワクチンとは異なる戦略的安全性の高い次世代ワクチン及び治療用抗体の開発を完了し、1～3年後には製薬メーカーへ導出する。
- ・今後も勃発が予想される新興感染症に対して、国民の健康維持はもとより、国家戦略上極めて重要である他国の事情に左右されない、国内で速やかな対応が期待できるワクチン・治療薬開発の拠点につながる。



島大病院ニュース 2022年6月

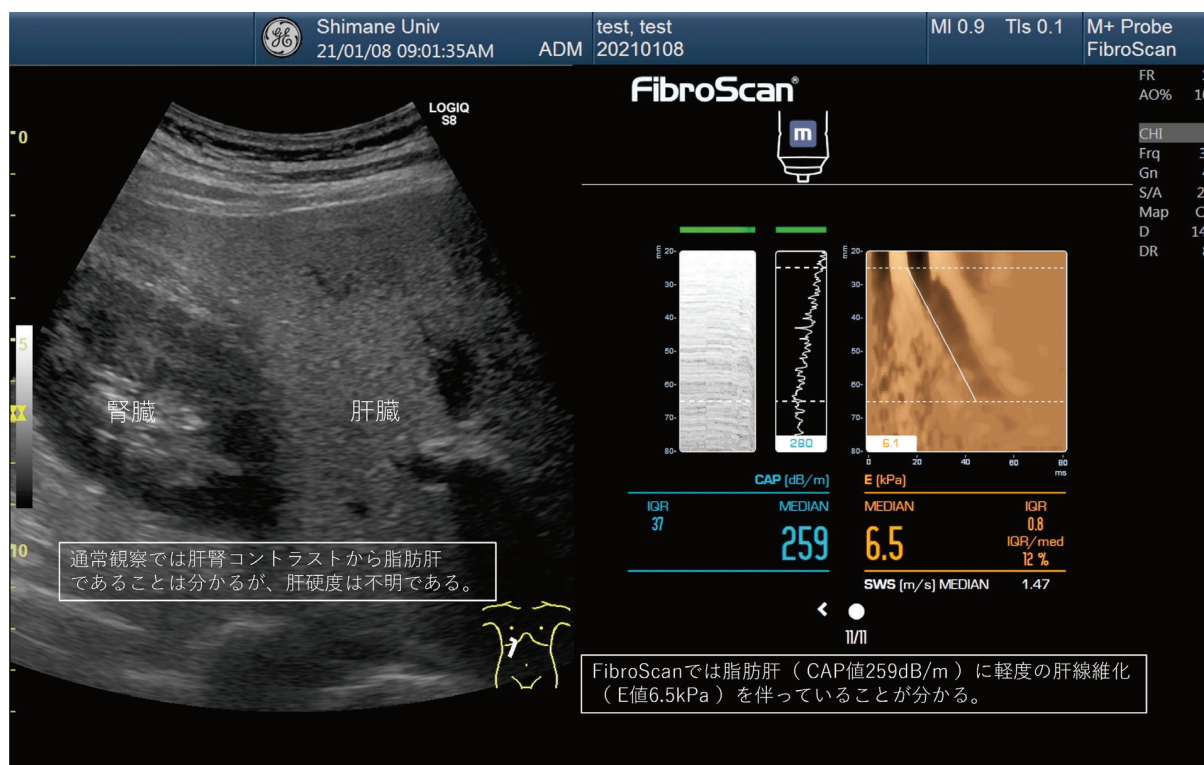
ご報告

最新の脂肪肝の診断

肝臓内科 診療科長 講師 とびた ひろし
飛田 博史

飲酒量は乏しいにもかかわらず、肝臓に脂肪が蓄積する病気が非アルコール性脂肪性肝疾患 (Nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD)) です。日本人の約 25% が NAFLD に罹患しています。

NAFLD を診断するためには、脂肪肝であることを診断して、二次性に脂肪肝を来す原因を除外する必要があります。一般的には、通常の腹部超音波検査で肝腎コントラストや深部エコーの減衰が認められると、脂肪肝と診断しますが、客観性に乏しい診断法であると言えます。この度、2022 年 2 月に保険収載された超音波減衰法による肝脂肪化定量 (超音波減衰検査 200 点) によって、客観的な脂肪肝の診断が可能になりました。FibroScan® に掲載される CAP (Controlled Attenuation Parameter) は、超音波減衰量測定による脂肪量評価法です。当院では 2019 年に CAP を導入して、脂肪肝の程度を分かり易く患者さんに説明し、脂肪肝の経時的な変化を評価しています。



問合せ先 内科外来 TEL : 0853-20-2381



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年6月

ご報告

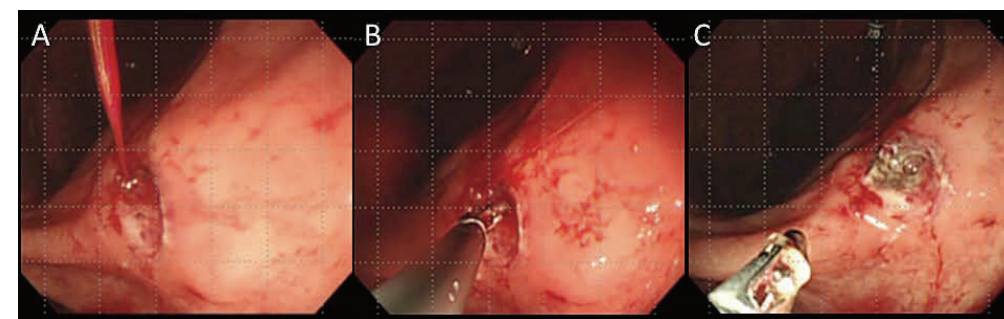


ハイブリッドERで安全な治療 ～急性期の消化管出血に対する内視鏡を用いた止血について～

光学医療診療部 部長 准教授 しばがき こうたろう
柴垣 広太郎

消化管出血は様々な原因で生じます。緊急処置が必要な疾患としては、食道静脈瘤破裂、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室出血などがあります。いずれも急激に血圧が低下し、ふらつき・意識消失などを生じ、治療が遅れると生命にかかわる疾患です。

以前は緊急手術が行われていましたが、現在は内視鏡治療で多くの疾患が止血可能です。とはいえ、術中に血圧が低下して全身状態が悪化することも多く、当院ではハイブリッド ER で高度外傷センターのスタッフとともに、安全で精度の高い診療を行っています。全身管理を救急診療のスペシャリストが行うため、消化器内科医は安心して内視鏡治療に専念することができます。また、内視鏡的な止血術が難しい場合には、治療室を変わることなく、連続してカテーテル治療や手術を行うことができます。ハイブリッド ER での緊急内視鏡診療の確立により、現在では数多くの重症消化管出血症例を受け入れています。



症例

80 歳代男性、急性出血性胃潰瘍 (主訴：吐血・ショック)
胃角部小弯後壁に噴出性の出血を伴う潰瘍を認める (A)。止血鉗子を用いて潰瘍内の血管を把持して焼灼し (B)、止血が得られた (C)。



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年6月

ご報告

献腎移植について

泌尿器科 診療科長 教授 わだ こういちろう
和田 耕一郎

2022年4月、当院で脳死下腎移植を実施しました。午前1時の献腎摘出の出発に際しては、手術室や外傷センターのスタッフの方々に見送って頂きました(写真1)。摘出には高度外傷センターの室野井智博先生(腎移植センター副センター長)、木谷昭彦先生、藏本俊輔先生、研修医の三谷一貴先生にもご尽力頂き、無事に当院へ運搬できました(写真2)。また、椎名浩昭病院長とも腎移植手術をご一緒でき(写真3)、ドナーやご家族の崇高なご意思とレシピエントの熱意がマッチし、ひとつの形となった瞬間に最も近くに立ち会わせて頂きました。

末期腎不全に対する唯一の根治的治療である腎移植によって、患者さんの寿命が延び、食事や水分制限が緩和され、スポーツや旅行も可能となります。妊娠出産や小児の成長も期待でき、腎移植1件につき約8,400万円の医療費削減が見込めます。腎不全患者さんだけでなく、社会にとって大きな利益となる医療に腎移植は位置付けられています。

心停止および脳死ドナーからの腎移植を献腎移植と呼びます。2010年の改正臓器移植法施行により、ご本人の意思が不明でも、ご家族の承諾で臓器提供が可能となりました。しかし現状では、親族に提供者がおられない場合は献腎登録から腎移植までに平均約14.3年もかかっています。登録者数は13,000名を超え、年間の献腎移植件数も141件にとどまっています(2021臓器移植ファクトブックより)。

島根大学の腎移植センターでは、献腎ドナーが増加し、腎不全の患者さんが少しでも減ることを願い、腎移植の理念や概要、臓器提供の意思表示について啓発し、院内のルール整備、臓器提供の意思を医療者側が汲み上げるシステムづくり、などに取り組んでいます。献腎、生体に関わらず、腎移植に関することはお気軽にお問い合わせください。



問合せ先 泌尿器科外来 TEL: 0853-20-2387



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年6月

お知らせ



医師会・歯科医師会会員向け「休日人間ドック」のご紹介

臨床検査科 診療科長 やの しょうぞう
矢野 彰三

当院では、島根県医師会・歯科医師会会員様限定の「休日人間ドック」を実施しており、毎年多くの先生方に受検して頂いております。COVID-19の影響で健診の受検を控えた結果、がんの診断が減少しているという調査結果もあるようです。がんだけではなく、さまざまな疾患の早期発見には定期的なチェックが欠かせません。安心して過ごしていただけるよう、是非当院の「休日人間ドック」をご利用ください(別途ご案内をお送りします)。3回とも日曜日に実施しますので、平日の業務に支障ありません。なお、今年度から、予約方法がWEBに変更になりました。

昨年度よりオプションとしてPET/CTによる「全身ドック」を開始しました。PET(陽電子放出断層撮影)とCT(コンピューター断層撮影)を組み合わせたPET/CTは、がんの早期発見、初期診断、転移や再発の診断に有効な検査です。オプションとして「全身ドック」を選択していただいた場合、PET/CTは別日(平日)に実施しますが、PET/CTのみを予約することも可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

当院の人間ドック基本コースは、基本健診、眼底カメラ、腫瘍マーカー、診察を含み、必要な場合は紹介状を作成します。



オプションコースや料金についてはHPでご確認ください。

<https://hdrs.med.shimane-u.ac.jp/index.html>

もちろん、感染対策についても細心の注意を払っております。皆様の健康維持と疾病の早期発見のため、この機会に当院の「休日人間ドック」をご予約してみたいはいかがでしょうか。

臨床検査科

電 話 : 0853-20-2559 (留守電対応)

※留守電に御名前・連絡先・ご用件をお話し下さい。後日担当者からご連絡します。

メー ル : dock@med.shimane-u.ac.jp



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年6月

ご報告

こどもの日の花火大会

C病棟 6階 (小児病棟)

看護師長

病棟保育士

ながた
永田
つばき
椿
りか
里佳
あつみ
敦美

毎年恒例となった「こどもの日の花火大会」が今年も5月5日に開催されました。

「入院している子どもたちにもこどもの日を楽しんで欲しい」と、出雲市大社町在住、花火師の多々納恒宏さんのボランティア団体「こどもの日花火の会」によるイベントです。

真正面から見る花火は迫力があり、花火が上がるたびに歓声が沸いていました。

小さい子どもたちは興味深そうにじーっと花火を見ていました。お兄さんお姉さんたちは動画を撮ったり、ご家族にテレビ電話で見せてあげようとしていました。手術後で色々な制限がある子、複数のルート類がある子でご家族とベッドから離れて花火を見る姿もあり、花火の力を感じました。

コロナ禍で多くの制限がある中、入院することによって更なる制限がかかる子ども達にとっての行事は、社会とのつながりや季節を感じる大変貴重なものです。

「気分転換になってよかった」、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝える子ども達の姿と歓声に、今年もスタッフはパワーをもらいました。

一日でも早く平穏な日常が戻り、来年こそはみんなで賑やかに花火が鑑賞できますように。



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年6月

ご報告

島大病院の空に「こいのぼり」が揚げられました

総務課

毎年恒例となりました『島大病院こいのぼり掲揚プロジェクト』。今年も病院正門前で行いました。

こいのぼりを揚げる由来は、子どもたちに大空を悠々と泳ぐこいのぼりのように、大きく元気に育ってほしいという願いが込められていると言われています。また、鯉は沼や池といった清流以外の場所でも生きられる丈夫な魚のため、難関を鯉のように突破してほしい、逆境でも頑張りがける強い人に成長してほしいという願いも込められているようです。

こいのぼりの掲揚日当日、集まってくれたうさぎ保育所の子どもたち21名は、こいのぼりが揚がるのを待ちきれない様子でした。

椎名病院長からのお話の後、子どもたちは「こいのぼり」と「手のひらを太陽に」の2曲を元気よく歌い、いよいよこいのぼりを揚げる時が来ました。

子どもたちは椎名病院長、田中看護部長とともに交代で掲揚台に上がり、元気よく紐を引きました。そして、こいのぼりが空高く泳ぎ始めると、拍手と歓声が沸き起こりました。

子どもたちの健やかな成長を願うとともに、空高く元気よく泳ぐこいのぼりを見て、少しでも患者さんの心の癒やしになることを願っています。こいのぼりは、ゴールデンウィーク明けまで病院の空をたくましく泳いでいました。



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年6月

お知らせ

病診連携で全ての患者さんに 最適なリウマチ医療を

膠原病内科 診療科長 講師 こんどう まさひろ
近藤 正宏

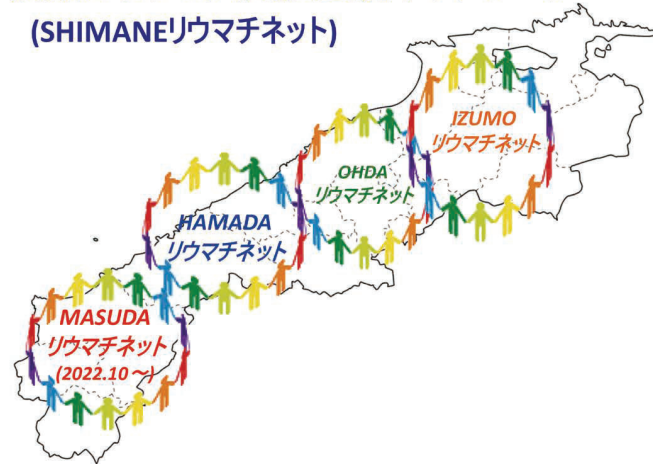
関節リウマチは、有効な治療がなく、徐々に関節破壊が進行し関節変形に至る予後不良な疾患でした。その後 21 世紀になりメトトレキサートや、バイオ製剤と呼ばれる炎症性サイトカインを強力に抑制する薬剤が使用可能になってからは、「寛解」と呼ばれる状態を目指すことが可能となりました。

一方そうした治療には注意すべき合併症があり、治療の実践にあたっては専門医の役割が重要となってきましたが、島根県にはリウマチ専門医が非常に少ないため、県西部や山間部の患者さんはそうした治療を受けることができない、すなわち医療格差の問題がありました。以前から当科では、専門医が不足している県西部で非常勤医師による外来を行なっていましたが、関節リウマチは罹病率 0.5 ～ 1 %と言われるほど高頻度に見られる疾患であるため、医療格差の解消は困難でした。

そこで 2008 年から浜田医療センターリウマチ外来を中心に、地域の非専門医の先生と役割分担を行いながら診療をすすめるという、病診連携でのリウマチ診療を始めました。現在 10 年以上が経過し、こうした連携にはより多くの患者さんの診察が可能となる、早期診断や安全な治療にむすびつくなど、様々なメリットがあることがわかりました。現在同様の病診連携を大田、出雲でも行なっており、今年 10 月からは益田でも開始予定です。

島根県内どこに住んでいても安心して最適な治療を受けていただける体制をこれからも作っていきたくて考えています。

島根県のリウマチ病診連携ネットワーク (SHIMANEリウマチネット)



問合せ先 内科外来 TEL : 0853-20-2381



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年6月

お知らせ

『喘息外来』を始めました

呼吸器・化学療法内科 教授 いそべ たけし
磯部 威
助教 はまぐち めぐみ
濱口 愛

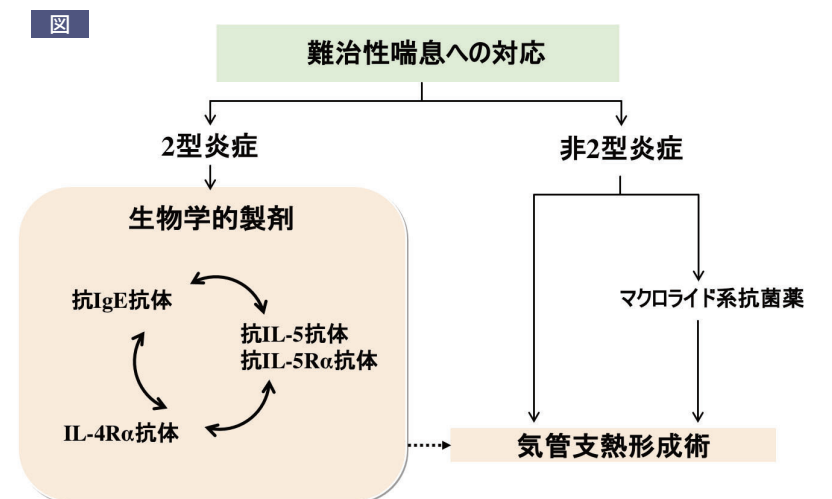
気管支喘息の治療は気道の慢性的な炎症を抑える吸入ステロイド薬を基本として、長時間作用性 β 2 刺激薬、長時間作用性抗コリン薬を加えた合剤の普及により、コントロール良好な状態での外来治療が可能となりました。一方で、喘息治療を十分に行っても喘息の発作を繰り返す難治性喘息（重症喘息）が存在し、繰り返す喘息発作は、気道炎症による気流制限を生じ、特に気道リモデリングという気管支基底膜の肥厚、気管支平滑筋の肥大・過形成は非可逆的な気流制限を生じ、重症・難治化の一因となり、患者さんの日常生活、就労、学業などに大きな支障をきたします。

難治性喘息に限らず、気管支喘息の症状が残存する患者さんにおいては、2 型炎症の評価（末梢血好酸球数、呼気中一酸化窒素濃度測定、血清総 IgE）、気流閉塞の診断となる呼吸機能検査、胸部 CT 検査などの専門的評価に加え、血管炎、アレルギー性気管支肺真菌症、アスピリン喘息など、背景に増悪・難治化の因子が無いかについての精査が必要です。コントロール不良の要因として、吸入手技の不備や生活環境など増悪因子の理解が不十分なことが多々あります。吸入指導の重要性を含め、患者教育による自己管理のためのパートナーシップの確立も重要となります。また、専門医とかかりつけ医との長期間の連携が必要です。気管支喘息の分子病態の解明が進み、難治性喘息に効果が確認された IgE や IL-5 などを標的とした生物学的製剤の使用が可能となっています。

呼吸器・化学療法内科では「喘息外来」を設置し、コントロールが不良な難治性喘息（重症喘息）の患者さんに対して、各種抗体製剤や気管支熱形成術を行います（図）。喘息のコントロールに難渋される症例、合併症などが問題となる症例などございましたら、ご紹介いただければと思います。

曜 日	担当医師
火曜日	磯部 威

問合せ先 内科外来 TEL : 0853-20-2381



（一般社団法人日本アレルギー学会. 喘息予防・管理ガイドライン2021）



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年6月

ご報告

日本救急撮影技師認定機構が指定する 実地研修施設に認定されました

救命救急センター センター長 いわた よしあき
岩下 義明
放射線部 主任診療放射線技師(救急撮影認定技師) かなやま ひでかず
金山 秀和

この度当院は、日本救急撮影技師認定機構¹⁾が認定する救急撮影認定技師の取得要件の一つである「機構指定の施設における実地研修(2日間)」の施設に認定されました。

近年、救急部門強化に伴う重症患者の受け入れ増加を受け、診療放射線技師も救急医療における技術及び知識の習得や救急体制の構築等、質の高い救急放射線診療の提供に努めております。

現在、実地研修は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により2年間中断となっていますが、再開の折には、救急撮影認定技師取得を目指す全国の放射線技師の皆様、「島大救急」を経験し、認定取得を目指して頂きたいと思っています。

1) 日本救急撮影技師認定機構

構成・支援する団体の連携により、統一した基準の下に救急放射線診療に関わる技術者の認定を行い、地域や時間を問わず実施される救急診療において、安定して最適な画像情報を提供し、かつ安全性を担保する知識・技術を普及させることによって国民の保健衛生の向上と、社会の発展に寄与することを目的に2010年2月に設立された。2019年7月現在、約1,500名が救急撮影認定技師に認定されている。

日本救急撮影技師認定機構 HP
<http://www.jert.jp/index.html>



問合せ先 放射線部(担当: 金山 秀和) TEL: 0853-20-2435



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年6月

ご報告



今年度もふれあいサンタクロース(季節外れ?)から 励ましのメッセージが届きました!

感染制御部/地域医療支援学 教授 さの ちあき
佐野 千晶

コロナ禍が長期化し医療者の疲弊感が否めませんが、多くの皆様、団体様から応援して頂いているところです。

先日には、2021年にボランティアランナーとしてお越しいただいた村松さんが、今年度もご訪問して頂けました。以前には全国の被災地幼稚園等へケーキを贈るボランティアをなさっておられました。現在は、島根県内の多くの医療機関へ寄せ書き応援メッセージボードや自費での寄付金を贈られるといった活動をなさっています。

このような暖かな声は、日々業務に追われる医療者を元気づけ一層の社会貢献意識へとつながっていきます。とてもうれしいです。本当にありがとうございます!

たくさんの優しいまなざしを胸に、地域住民の健康を守るためスタッフ一丸となって医療、感染対策にあたりたいと思います。今後ともご支援の程、何卒宜しくお願い致します。

※ボランティア活動初めて今年で45年

※地元(雲南市内)と全国の被災地にショートケーキ等を贈り届けた数は昨年末(令和3年)で87,428個です。



2017年12月4日 熊本地震被災地
熊本県益城町益城第二幼稚園にて



2021年12月21日 雲南市加茂町南加茂
みなみかも保育園にて



2022年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





検査部採血室

検査総合自動受付機ならびに 採血台リニューアルについて

臨床検査技師長 荒木 剛
主任臨床検査技師 芳村 麻子

2022年5月6日(金)より病院のシステム更新に伴い、検査総合自動受付機(写真1)や自動採血管準備システムと連動したアシストシステムを搭載し、採血台が電動式で昇降する採血台(写真2)をリニューアルいたしました。

検査総合自動受付機につきましては、病院受付で発行される外来受診票に記してあるバーコード部分を用いて受付する(写真3)ことが可能となり、従来行っていた診察券の挿入の手間や、カード認識不良もなく受付を行うことができます。

採血台につきましては、以前は採血台7台のうち6台は台が昇降することなく、採血用枕で採血を行う腕の上下調節を行っていました。また、車いすの患者さんの場合、採血台の下側へ足を奥まで入れることができず、採血台より体が離れてしまうため別の上肢台を使って採血を行うことがありました。

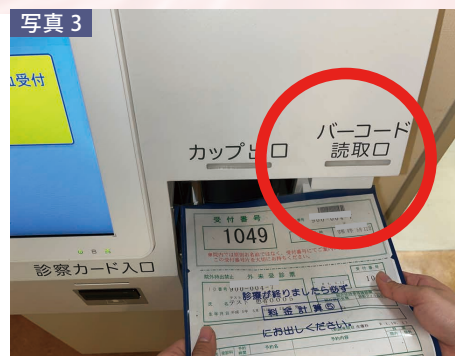
リニューアルで導入した採血台は、各採血台で自動昇降を行うことができ、採血を行う腕を最適な高さに調節することが可能となり、さらに車椅子の患者さんも足が奥まで入るような構造でスムーズな対応が可能な採血台となりました。

外来採血はこの20年で年間約15,000件増加しています(図1)。

今後も患者さんへ寄り添う対応ができるよう心掛けてまいりますのでよろしくお願いいたします。



検査総合自動受付機

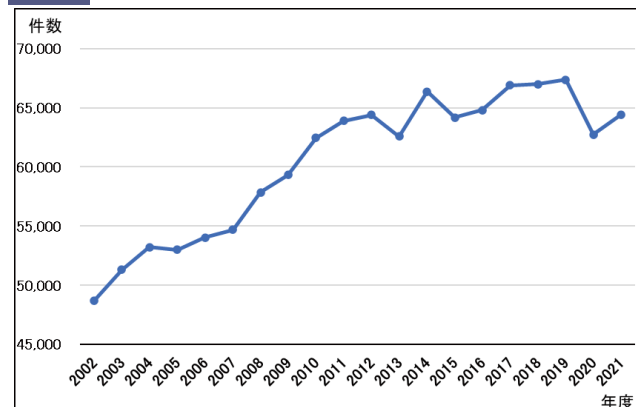


バーコード読み取り



採血台

図1



外来採血数

